

平成28年度 とまり樹はうす 事業実績報告書

1 総括

短期入所事業は緊急時の対応や将来の生活に向けた準備のために活用されており、地域のニーズは非常に高い事業である。当法人にもかねてから、利用者から開設への要望があり、また27年4月の花の樹開設計画の際にも小平市から短期入所併設の旨要望があった。これらの声を受け準備を進め、花の樹開設1年後の平成28年4月にグループホーム併設型の短期入所事業「とまり樹はうす」の開設に至った。

緊急時の支援と、将来の生活に備えた生活体験の2点を事業目的に据え開始したが、開設初年度の今年度は、まずは利用者が安心して利用できる環境づくりを一人ひとりに丁寧に行うことを第一の目標とした。利用者の安心感は個々の状況の把握やそれに応じた適切な支援と環境設定と考へ、利用前に本人、家族との面談や通所事業所からの聞き取りによって情報収集を行うとともに、利用後の状況についても聞き取りを行い、以後の支援の参考とした。また、開設後6か月は法人内の通所事業所利用者に限定して、確実な事業のスタートを優先させた。

土、日等を除く平日は稼働率が88%となり、事業に対するニーズの高さを再確認した。法人内通所利用者全体の約2割の方が、定期的な利用を希望し、概ね月に最低1泊は利用することができた。また短期入所事業を初めて利用する方が47名中19名おり、本事業の開設が将来へ向けた準備の促進に貢献できたと考へる。全体的には緊急時の対応より将来に向けた準備としての利用が多く、10月以降外部の受け入れも開始したが、やはりその殆どが生活体験としての利用であった。また、外部利用者の受け入れに伴う、利用者数の増加により一人ひとりの利用頻度が下がることを避けるため、登録制により利用者数を限定し、一人月一泊の利用保障を行った。

今後の課題は職員態勢の充実と支援スキルの向上といえる。慢性的な職員不足が解消できず、土、日、祝休日の利用者受け入れができなかったが、緊急時の対応強化をするためには、職員の確保は絶対条件である。また、誤薬事故が3件あり、日々変わる利用者の支援を正確に複数の職員が把握し引き継いでいくためのシステム作りや人材育成が必要である。法人外部利用者の利用者の受け入れも始まり、より多くの方の利用が予想される。利用に向けた適切な支援を実施していくために、以上2点の強化を図っていきたい。

2 事業概要

- 1) 施設名 とまり樹はうす
- 2) 事業種別 短期入所事業（併設型）
- 3) 所在地 東京都小平市花小金井南町1-26-28
- 4) 運営主体 社会福祉法人未来
- 5) 利用定員 2名
- 6) 法人認可年月日 平成14年12月13日
- 7) 事業開始年月日 平成15年1月1日
- 8) 職員（平成29年3月31日現在）
管理者 1名
生活支援員 名（常勤換算 . ）

- 3 基本理念 一人ひとりの自己実現の支援
互いの尊厳の尊重と信頼関係の構築
安心と希望のもてる生活

4 事業目的

- 1) 一時的な生活支援
家族または介護者が何らかの理由（冠婚葬祭、病気、事故、休養、その他の理由）により、一時的に自宅で支援することが困難な場合に、日常生活に必要な支援を行う。
- 2) 生活体験としての支援

生活体験の幅を広げ、より豊かな生活を支援する。

5 実施事業（活動内容）

- 1) 居室の提供
- 2) 食事の提供
- 3) 洗濯、掃除等の生活支援
- 4) 健康管理
- 5) 日中活動先（福祉サービス及び職場等）、関係機関との連絡、調整
- 6) 入浴等生活行為の支援
- 7) その他日常生活に必要な支援

6 日 課

5時00分～	7時30分	起床
7時30分～	9時30分	通所事業所、会社へ出勤
16時00分～	17時00分	利用開始
16時00分～	20時00分	入浴
18時00分～	19時00分	夕食
20時00分～	22時00分	就寝

7 重点課題・目標に対する評価

- 1) 一人ひとりの支援状況を把握し、けがや事故の防止に努める。

【成果と課題】

事業スタート時には、本人および家族との面談や個人調査書、また、通所先事業所から支援上の留意点等の情報提供があり、事前に生活状況や支援内容を把握した上で受入れを行った。利用後は、通所事業所や家族から、翌日の様子を伺うなどし、利用後の本人の状況についても確認を行ったほか、次の支援に役立てられるよう要望等の聞き取りを行った。しかし、事故防止のシステムの構築が不十分であり、誤薬事故を3件起こしてしまった。再発防止のため、事故の原因分析を行い、薬の管理方法、服薬時のチェック体制の改善、また、職員への指導強化を図った。

- 2) 緊急時の受け入れ態勢を強化できるよう支援体制を充実させる。

【成果と課題】

年間延べ利用者数440名の内、体験利用は353名、家族等の都合により一時的な生活支援の受け入れは87名、内土日祝休日の利用は11名であった。28年度は職員態勢の都合上、土日祝休日の利用を緊急時の受け入れのみと限定したことが土日祝休日の利用が伸びなかった一つの要因と考えられる。平日利用については体験利用、緊急時利用とも職員態勢の確保が行え、利用希望者の受け入れは88%実施することができた。事業所職員が不足した際は、グループホームとの併設型事業の利点を活かし、ホーム職員の配置で対応した。土日祝休日の受け入れについては職員の確保が出来次第実施する予定であったが、年度内に職員態勢を整備できず、次年度への課題として残った。

8 実施状況

- 1) サービス実施日数（期間 自：平成28年4月1日 至：平成29年3月31日）
363日間
- 2) 年間延実施日数 244日間 （内、土・日・祝日・休日開設 11日間）

9 利用状況

- 1) 利用者実人数 47人（契約者数60名）
- 2) 利用者延人数 440人
- 3) 一日平均利用人数 1.2人

10 利用者状況（平成29年3月31日現在）

1) 年齢

【利用者実人数】

- ・ 18歳以上20歳未満 3名
- ・ 20歳以上30歳未満 23名
- ・ 30歳以上40歳未満 14名
- ・ 40歳以上50歳未満 6名
- ・ 50歳以上 1名

【利用者延べ人数】

- ・ 18歳以上20歳未満 11名
- ・ 20歳以上30歳未満 238名
- ・ 30歳以上40歳未満 113名
- ・ 40歳以上50歳未満 75名
- ・ 50歳以上 3名

2) 障害の状況

(1) 障害支援区分

【利用者実人数】

- ・ 区分1 0名
- ・ 区分2 2名
- ・ 区分3 13名
- ・ 区分4 14名
- ・ 区分5 14名
- ・ 区分6 4名

【利用者延べ人数】

- ・ 区分1 0名
- ・ 区分2 5名
- ・ 区分3 98名
- ・ 区分4 80名
- ・ 区分5 218名
- ・ 区分6 39名

3) 居住状況

【利用者実人数】 管内居住 38名 管外居住 9名

【利用者延べ人数】 管内居住 385名 管外居住 55名

4) 性別

【利用者実人数】 男性 34名、女性 13名

【利用者延べ人数】 男性 328名、女性 112名

11 環境の整備

事業所内外の美化と利用者身辺の整理整頓につとめ、転倒などの事故防止に努めた。

12 防災

年1回9月にグループホーム花の樹と共同で避難訓練を実施した。